

## 自然現象

「京都府レッドデータブック 下巻 地形・地質・自然生態系編」では、同じく京都府レッドデータブックで扱われている地形・地質や生態系などと区分して、温泉(鉱泉)、鳴き砂、地下水(湧き水)、霧、雲海、風穴、活断層及び地震断層が自然現象リストに掲載されている。ただし、自然現象については、現在の人間活動に依存して成立しているような点も多いために、今後の推移についても議論ができないような面がある(特に生物と同じような絶滅危惧のランク付けは不可能である)と記載されている。また、「京都府自然環境目録」にも同一のリストが掲載されている。京都府レッドデータブック及び京都府自然環境目録に掲載されている自然現象リストのうち、宇治田原町に位置するもの(宇治市、城陽市の掲載なし)を表2-2-1.25に示す。

これによると、事業予定地周辺では、郷之口温泉(鉱泉)が掲載されている。

表2-2-1.25 宇治田原町の自然現象リスト

類型	名称	所在地	特記事項
鉱泉	亀ノ井鉱泉	宇治田原町	真言院境内
鉱泉	湯屋谷鉱泉	宇治田原町湯屋谷	4箇所が知られている
鉱泉	郷之口温泉	宇治田原町郷之口	

注：リストには、掘削を除き、自然な状態で湧き出している温泉(鉱泉)があげられている

資料：「京都府自然環境目録」(平成14年、京都府)

「京都府レッドデータブック 下巻 地形・地質・自然生態系編」(平成14年、京都府)

## (5) 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

### 1) 動物

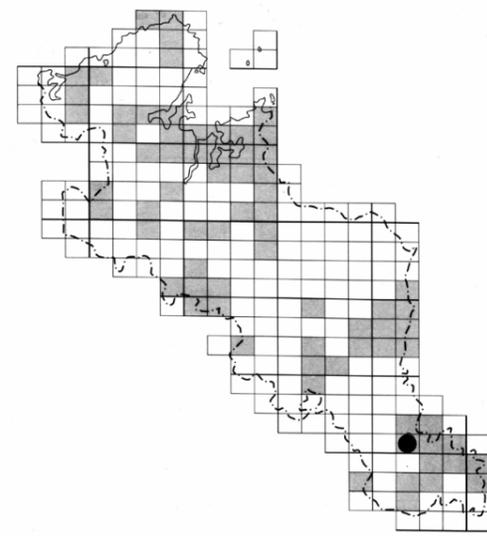
#### 哺乳類

事業予定地周辺における哺乳類の生息状況について、「第4回自然環境保全基礎調査(京都府自然環境情報図)」(平成7年、環境庁)に基づき、事業予定地が含まれるメッシュ内で分布が確認されている哺乳類を図2-2-1.8に示す。これによると、調査対象8種の哺乳類(ニホンザル、ニホンジカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ、カモシカ)のうち1985年以降に分布が確認されているのはニホンザル、ニホンジカ、イノシシ、キツネ、タヌキの5種である。

また、事業予定地の北約1kmに位置するグリーンヒル三郷山周辺を対象とした「次期埋立処分地環境影響評価書」によると、ニホンリス、タヌキ等4目6科7種の哺乳類が確認されている。

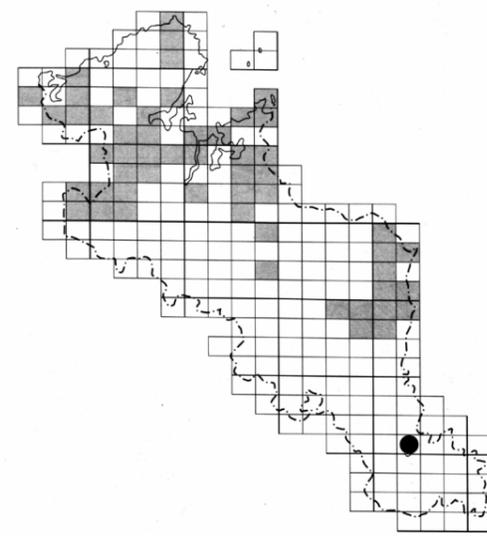
その他、「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」(平成13年、城陽市)によると、事業予定地の南部に位置し、最寄の調査地域である青谷川左岸地域において、5種の哺乳類(ただし、イタチ類を除く)が確認されている。

動物分布図  
ニホンザル



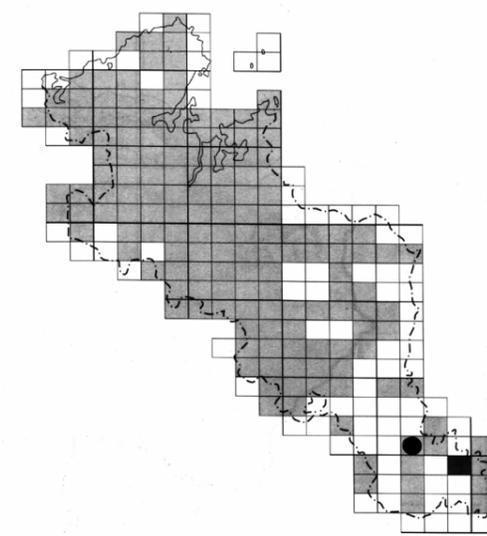
■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

動物分布図  
ツキノワグマ



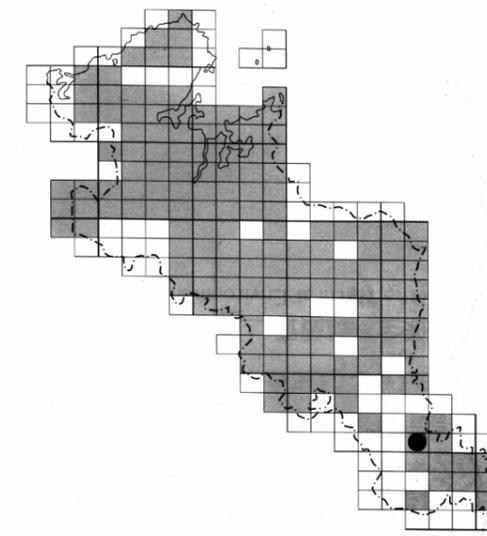
■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

動物分布図  
タヌキ



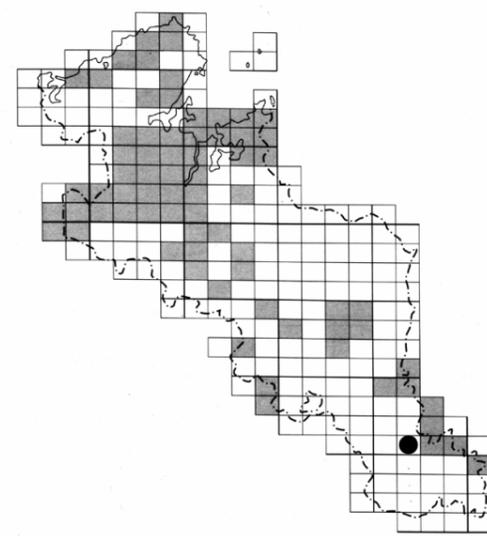
■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

動物分布図  
キツネ



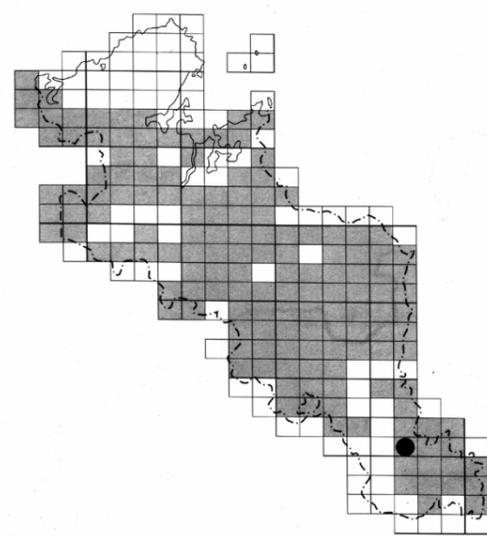
■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

動物分布図  
アナグマ



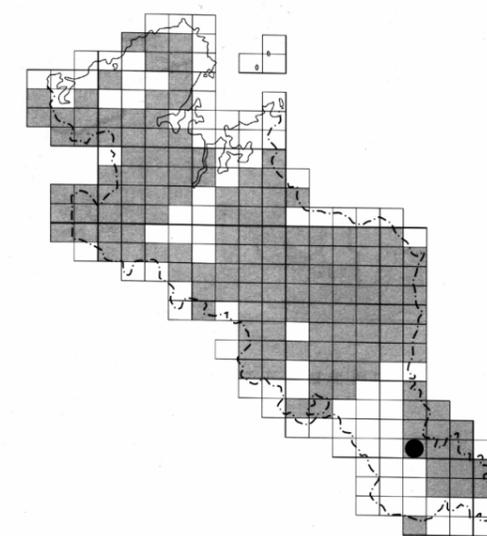
■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

動物分布図  
ニホンイノシシ



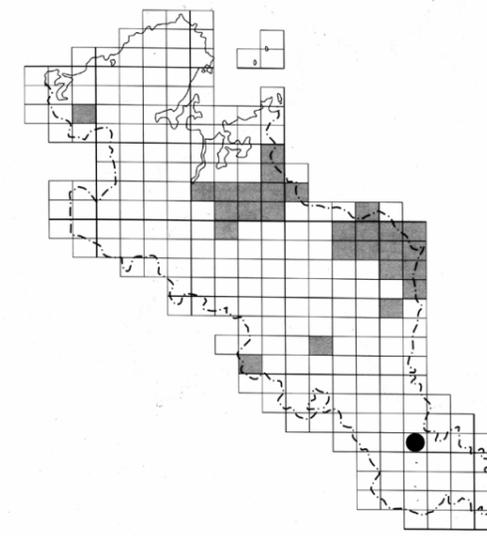
■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

動物分布図  
ニホンジカ



■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

動物分布図  
カモシカ



■ 1985年以降に分布が確認  
● 1984年以前に分布が確認  
(または確認年代が不明)

凡 例  
事業予定地

資料：「第4回自然環境保全基礎調査  
(京都府自然環境情報図)」  
(平成7年、環境庁)

図2-2-1.8 京都府内での哺乳類  
の生息状況

事業予定地及び周辺の現地踏査の結果では、事業予定地周辺でイノシシ（足跡）、モグラ属の1種（坑道）等の哺乳類が確認された。（資料編（資料4）参照）

また、地元有識者への聞き取り調査によると、事業予定地及び周辺の自然条件については人為的影響を大きく受けており、哺乳類の生息環境として良好であるとはいえず、生息しているとしても一時的なものであり、本来の生活や繁殖に適している場所ではないとの情報が得られた。

以上の情報等に基づき、事業予定地周辺に生息する哺乳類の概要についてまとめたものを表2-2-1.26に示す。

表2-2-1.26 事業予定地周辺に生息する哺乳類の概要

分 布			宇治 田原市	城陽市	城陽市	久御山町 飛地	現地踏査	環境省 レッドデータブック	京都府 レッドデータブック
資料番号									
カテゴリー等			確認種	確認種 (青谷川左岸地域)	確認種	確認種			
目名	科名	種名							
モグラ	モグラ	ヒリス							
モグラ	モグラ	モグラ属の一種							
サル	オガザル	ニホンザル							要注目種
ウサギ	ウサギ	ノウサギ							
リス	リス	ニホンリス							
ネコ	イヌ	タヌキ							
ネコ	イヌ	キツネ							
ネコ	イタチ	テン							
ネコ	イタチ	イタチ類							
ウシ	イノシシ	ニホンイノシシ							
ウシ	シカ	ニホンジカ							
種類数計			5	5	7	2	0	1	

資料：「第4回自然環境保全基礎調査（京都府自然環境情報図）」（平成7年、環境庁）  
 「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」（平成13年、城陽市）  
 「次期埋立処分地環境影響評価書」（平成8年、城南衛生管理組合）

これらから、事業予定地周辺は土砂採取事業所や自衛隊演習場等の人為的な活動の影響を多く受けた場所もあるが、主に山林に生息するニホンジカやイノシシの大型哺乳類から、人里に生息しているモグラ等の小型哺乳類までみられることから、里山的な環境が維持されていると考えられる。

その中で、事業予定地は現有施設に隣接した敷地内の人工緑地、駐車場等に利用されている場所であり、哺乳類の生息環境として、一時的な生息及び利用を除き、長期的な生活や繁殖に好適な場所とはいえない状況である。

## 鳥類

事業予定地周辺における鳥類の生息状況について、「第2回自然環境保全基礎調査(動物分布調査報告書(鳥類)全国版)」(昭和56年、環境庁)に基づき、事業予定地を含む広い範囲での生息及び繁殖が確認されている鳥類を表2-2-1.27に示す。これによると、日本で生息又は繁殖の可能性がある鳥類257種のうち、53種が確認されている。なお、事業予定地の南西部周辺には、河川敷や巨椋池干拓田等が四季を通じて野鳥の生息地となっているほか、北部周辺の天ヶ瀬ダム等には多数のカモ類が越冬に訪れている。

表2-2-1.27 事業予定地を含む広い範囲で確認されている鳥類

ランク A：繁殖を確認した。			
ヨシゴイ	ゴイサギ	アマサギ	チュウサギ
コサギ	カルガモ	トビ	キジ
タマシギ	コチドリ	ケリ	カワセミ
ヒバリ	ツバメ	コシアカツバメ	セグロセキレイ
モズ	オオヨシキリ	セッカ	シジュウカラ
ホオジロ	カワラヒワ	スズメ	キンランチョウ
ランク B：繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある。			
サンバ	コジュケイ	ヒクイナ	バン
キジバト	ツツドリ	ホトトギス	アオバズク
ヨタカ	アオゲラ	アカゲラ	キセキレイ
ヤブサメ	ウグイス	キビタキ	オオルリ
ヒガラ	ヤマガラ	メジロ	イカル
ムクドリ	カケス	ギンバラ	
ランク C：生息を確認したが、繁殖については何ともいえない。			
コゲラ	サンショウクイ	ヒヨドリ	エナガ
ハシボソガラス	ハシブトガラス		

資料：「第2回自然環境保全基礎調査(動物分布調査報告書(鳥類)全国版)」(昭和56年、環境庁)

「京都府すぐれた自然図」(昭和51年、環境庁)及び「京都の自然200選」(平成7年、京都府)によると、事業予定地の北西部周辺においてカワセミ、ケリ、フクロウ、ミミズクが確認されているほか、「第4回自然環境保全基礎調査(京都府自然環境情報図)」によると事業予定地周辺の宇治市においてヒメアマツバメの集団ねぐら(1地点)及びコシアカツバメの集団ねぐら(2地点)が確認されている。

また、事業予定地の北約1kmに位置するグリーンヒル三郷山周辺を対象とした「次期埋立処分地環境影響評価書」によると、ヤマセミ、シジュウカラ等7目18科29種の鳥類が確認されている。

その他、「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」によると、事業予定地に最寄の調査地域である青谷川左岸地域において、47種の鳥類(ただし、貴重種は除く)が確認されている。(資料編(資料4)参照)

事業予定地及び周辺の現地踏査の結果では、ジョウビタキ等の鳥類(20種)が確認された。(資料編(資料4)参照)

地元有識者への聞き取り調査によると、事業予定地及び周辺の城陽市、宇治田原町において15目35科117種の鳥類(資料編(資料4)参照)が確認されているとの情報が得られた。また、事業予定地及び周辺の自然条件については人為的影響を大きく受けており、鳥類の生息環境として良好であるとはいえず、仮に動物が生息しているとしても一時的なものであり、本来の生活や繁殖に適している場所ではないとの情報が得られた。

以上の情報等に基づき、事業予定地周辺に生息する鳥類の概要についてまとめたものを表2-2-1.28に示す。

これらから、事業予定地周辺は土砂採取事業所や自衛隊演習場等の人為的な活動の影響を多く受けた場所もあるが、カワセミ、ヤマセミ等の水辺に生息する鳥類から、猛禽類、シジュウカラ等の主に山林に生息する鳥類までみられることから、多様な生息環境が維持されていると考えられる。

その中で、事業予定地は現有施設に隣接した敷地内の人工緑地、駐車場等に利用されている場所であり、鳥類の生息環境として、一時的な生息及び利用を除き、長期的な生活や繁殖に好適な場所とはいえない状況である。

#### 両生・爬虫類

事業予定地周辺における両生・爬虫類の生息状況については、「京都府の両生・は虫類」(昭和62年、京都府)によると、事業予定地周辺の宇治市志津川においてオオサンショウウオ(現認)が、宇治市炭山、宇治田原町鷲峰山、宇治田原町禅定寺においてヒダサンショウウオ(いずれも聞き込み)が、城陽市富野においてダルマガエル(現認)が確認されている。「京都府動植物分布図」(平成元年、京都府)によると、事業予定地の北部周辺においてオオサンショウウオが、北東部周辺においてヒダサンショウウオが、南西部周辺の木津川周辺においてダルマガエルが確認されている。

また、事業予定地の北約1kmに位置するグリーンヒル三郷山周辺を対象とした「次期埋立処分地環境影響評価書」によると、タゴガエル、アマガエル等1目2科2種の両生類、マムシ等1目4科4種の爬虫類が確認されている。

その他、「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」によると、事業予定地に最寄の調査地域である青谷川左岸地域において、5種の爬虫類、4種の両生類(ただし、貴重種とアカガエル類を除く)が確認されている。(資料編(資料4)参照)

事業予定地及び周辺の現地踏査の結果では、マムシが確認された。(資料編(資料4)参照)

地元有識者への聞き取り調査によると、事業予定地及び周辺の自然条件については人為的影響を大きく受けており、両生・爬虫類の生息環境として良好であるとはいえず、仮に動物が生息しているとしても一時的なものであり、本来の生活や繁殖に適している場所



ではないとの情報が得られた。

以上の情報等に基づき、事業予定地周辺に生息する両生・爬虫類の概要についてまとめたものを表2-2-1.29、表2-2-1.30に示す。

これらから、事業予定地周辺は、土砂採取事業所や自衛隊演習場等の人為的な活動の影響を多く受けた場所もあるが、ヒダサンショウウオやタゴガエルの河川上流域に生息する種や、マムシ等の山林から人里に生息する種がみられることから、多様な生息環境が維持されていると考えられる。

その中で、事業予定地は現有施設に隣接した敷地内の人工緑地、駐車場等に利用されている場所であり、両生・爬虫類の生息環境として、一時的な生息及び利用を除き、長期的な生活や繁殖に好適な場所とはいえない状況である。

表2-2-1.29 事業予定地周辺に生息する両生類の概要

分布			宇治田原市	宇治市	城陽市	城陽市	久御山町飛地	環境省レッドデータブック	京都府レッドデータブック
資料番号			、						
カテゴリー等			確認種		確認種 (青谷川左岸地域)		確認種		
目名	科名	種名							
サンショウウオ	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ							準絶滅危惧種
サンショウウオ	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ						準絶滅危惧	絶滅危惧種
カエル	アマガエリ	アマガエリ							
カエル	アカガエリ	タゴガエリ							
カエル	アカガエリ	ヤマアカガエリ							要注目種
カエル	アカガエリ	トノサマガエリ							要注目種
カエル	アカガエリ	ダルマガエリ						絶滅危惧類	絶滅寸前種
カエル	アカガエリ	ウシガエリ							要注目種-外来種
カエル	アオガエリ	シレーゲルアオガエリ							要注目種
種類数計			1	2	1	4	2	2	7

資料：「京都府の両生・は虫類」（昭和62年、環境庁）  
 「京都府動植物分布図」（平成元年、京都府）  
 「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」（平成13年、城陽市）  
 「次期埋立処分地環境影響評価書」（平成8年、城南衛生管理組合）

表2-2-1.30 事業予定地周辺に生息する爬虫類の概要

分 布			城陽市	久御山町飛地	現地踏査	環境省レッドデータブック	京都府レッドデータブック
資料番号							
カテゴリー等			確認種 (青谷川左岸地域)	確認種	確認種		
目名	科名	種名					
カメ	イガメ	イガメ					
トカゲ	トカゲ	トカゲ					要注目種
トカゲ	カサハシ	カサハシ					
トカゲ	ハシ	シマハシ					要注目種
トカゲ	クサリハシ	マムシ					要注目種
種類数計			5	4	1	0	3

資料： 「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」（平成13年、城陽市）  
 「次期埋立処分地環境影響評価書」（平成8年、城南衛生管理組合）

昆虫類

事業予定地周辺における昆虫類の生息状況については、「京都府の昆虫( )」（昭和58年、京都府）によると、事業予定地周辺の城陽市においてオオムラサキが確認されている。「第2回自然環境保全基礎調査（動植物分布図 京都府）」（昭和56年、環境庁）及び「京都府動植物分布図」によると、事業予定地の北部周辺においてムカシヤンマが、北東部、南東部、南部、南西部周辺においてオオムラサキが、東部周辺の田原川においてゲンジボタルが確認されている。「京都府自然環境目録」によると、事業予定地周辺の宇治市及び京都府南部に分布が限られている種として、昆虫類33種があげられている。（資料編（資料4）参照）

また、事業予定地の北約1kmに位置するグリーンヒル三郷山周辺を対象とした「次期埋立処分地環境影響評価書」によると、キチョウ等14目95科247種の昆虫類が確認されている。

事業予定地及び周辺の現地踏査の結果では、キチョウ、シオカラトンボが確認された。（資料編（資料4）参照）

地元有識者への聞き取り調査によると、事業予定地及び周辺の自然条件については人為的影響を大きく受けており、昆虫類の生息環境として良好であるとはいえず、仮に動物が生息しているとしても一時的なものであり、本来の生活や繁殖に適している場所ではな

いとの情報得られた。

以上の情報等に基づき、事業予定地周辺に生息する昆虫類の概要についてまとめたものを表2-2-1.31に示す。

これらから、事業予定地周辺は土砂採取事業所や自衛隊演習場等の人為的な活動の影響を多く受けた場所もあるが、ムカシヤンマ等の河川上流域に生息する種から、コオイムシ、ミズスマシ等の主に止水域に生息する種、オオムラサキ等の山林に生息する種がみられることから、多様な生息環境が維持されていると考えられる。

その中で、事業予定地は現有施設に隣接した敷地内の人工緑地、駐車場等に利用されている場所であり、昆虫類の生息環境として、一時的な生息及び利用を除き、長期的な生活や繁殖に好適な場所とはいえない状況である。

表2-2-1.31 事業予定地周辺に生息する昆虫類の概要

分布	宇治市		京都府南部		宇治田原町		宇治市		宇治田原町		城陽市		城陽市		久御山町飛地		現地踏査	環境省レッドデータブック	京都府レッドデータブック		
	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種	確認種					
資料番号																					
カテゴリー等																					
目名	科数	種数	資料ごとの確認種数																	A:絶滅危惧種	
イシミ	1	1																			
カゲロウ	6	14												14							
トンボ	10	41				1								40		3	1				
ゴキブリ	1	2												2		1					
カマキリ	1	2												2		1					
シロアリ	1	1														1					
カゲラ	4	9												9							
ハツタ	10	29												28		1					
ナナフシ	1	2												2							
ハシロムシ	1	1												1							
チャクテムシ	1	1												1							
アザミウラ	1	1														1					
カメムシ	39	101												82		28		コオムシ(A)	コオムシ(C)		
アミメカゲロウ	7	11												9		2					
コウチュウ	51	275	31	2	1									199		63			ミスズマシ(D) オオヒメマルハナミ(B) キョウトビコブスジコガネ(B) ゲンジボタル(D)		
ルビ	18	84												60		43			スキハラヘッコウ(A) トラマルハナチ(C)		
シリアゲムシ	1	4												3		2					
ルビ	25	69												44		28			ミカトカガシボ(D) オオムシ(D) ハチモトキハナフ(C)		
トビケラ	6	14												13		1			コカクツトビケラ(D)		
チョウ	22	105				1	1	1						50	1	72	1	オムラサキ(A)	オムラサキ(C)		
種類数計	207	767	31	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	560	1	247	2	2	15		

- 資料：「京都府自然環境目録」（平成14年、京都府）  
「京都の自然200選」（平成7年、京都府）  
「第2回自然環境保全基礎調査（動植物分布図 京都府）」（昭和56年、環境庁）  
「京都府動植物分布図」（平成元年、京都府）  
「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」（平成13年、城陽市）  
「京都府の昆虫（ ）」（昭和58年、京都府）  
「次期埋立処分地環境影響評価書」（平成8年、城南衛生管理組合）

## 水生生物

事業予定地周辺における水生生物の生息状況については、「昆虫類」に示したとおり、事業予定地周辺においてムカシヤンマ、ゲンジボタルが確認されている。

また、「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」によると、事業予定地に最寄の調査地域である青谷川左岸地域において、3種の魚類、81種の水生生物（ただし、貴重種を除く）が確認されている。（資料編（資料4）参照）

事業予定地下流の長谷川での現地踏査では、カワムツやヨシノボリ（魚類）、4目4科7種の底生生物（昆虫類等）及び、5科11種の付着藻類等が確認された。（資料編（資料4）参照）

地元有識者への聞き取り調査によると、事業予定地下流域の長谷川は、土地利用等の特性から土砂による河川の濁りがみられ、水生生物の生息環境としても良好な状況にあるとはいえないとの情報が得られた。

以上の情報等に基づき、事業予定地周辺に生息する水生生物の概要についてまとめたものを表2-2-1.32に示す。

これらから、事業予定地周辺は青谷川のように多様な生物相が維持されている河川も存在している。しかしながら、事業予定地下流の長谷川については、河川の濁りがみられること、護岸がコンクリートの三面張りとなっていること、湧水期に干上がる区域があること等の特徴があり、水生生物の生息環境はかく乱を受けやすいと考えられる。よって、水生生物の生息環境として、一時的な生息及び利用を除き、長期的な生活や繁殖に好適な場所とはいえない状況である。

表2-2-1.32 事業予定地周辺に生息する水生生物の概要

分 布		城 陽 市		現 地 踏 査	環 境 省 レ ッ ド デ タ ブ ッ ク	京 都 府 レ ッ ド デ タ ブ ッ ク	
資料番号		確認種 (青谷川)					
カテゴリー等							
目名	科数	種数	種数	種数	A:要注目種 B:要注目種-外来種		
コイ	1	1	1	1			
スズキ	1	2	2	1			
ウツムシ	1	1	1				
コナ	1	1	1	1			
モノアラガイ	2	2	2				
ミミズ	1	2		2			
オヨギミミズ	1	1	1				
ワラジムシ	1	1	1				
ヨコエビ	1	1	1				
エビ	3	4	4			アメリカリガニ (B) ザワガニ (A)	
カゲロウ	6	13	13			キタヒラタカゲロウ (A)	
トンボ	6	11	11	1			
カゲラ	4	8	8				
カメムシ	2	6	6				
アミメカゲロウ	2	3	3				
コウチュウ	3	3	3			ミスズメシ (A)	
ハエ	2	11	11	3			
トビケラ	6	12	12			コカツツトビケラ (A)	
種類数計			81	9	0	5	

資料：「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」（平成13年、城陽市）

## 2) 植物

### 植生

事業予定地周辺における植物の生育状況について、「第3回自然環境保全基礎調査(植生調査)」(昭和60年、環境庁)に基づく、事業予定地周辺の植生図を図2-2-1.9に示す。

これによると、事業予定地周辺の植生は、北側に植林地、耕作地植生のスギ・ヒノキ・サワラ植林が分布し、南側にヤブツバキクラス域代償植生のうちアカマツ群落等が分布している。

「第3回自然環境保全基礎調査(特定植物群落)」(平成元年、環境庁)によると、事業予定地の北東部周辺において、特定植物群落として、宇治のオオチャルメルソウがある。また、「京都府南部地域の社寺林」(平成元年、京都府)によると、事業予定地の西部周辺において、すぐれた社寺林として水度神社がある。

動物と同時に行った現地踏査の結果では、事業予定地内は現有施設に隣接した敷地内の人工緑地(芝地)、駐車場等に利用されており、周辺は北側に養鶏団地、南側に土砂採取事業所があり、人工構造物の立地する造成地や土砂採取による裸地及び土砂採取跡の草地となっている。また、西側に自衛隊演習場があり、その場内は落葉広葉二次林を主体とした森林・草地で構成され、東側は落葉広葉二次林、スギ・ヒノキ植林を主体とした山林となっている。

以上の情報等に基づき、事業予定地周辺に生育する植物の概要についてまとめたものを表2-2-1.33に示す。また、参考として、事業予定地周辺の現況(航空写真)を図2-2-1.10に示す。

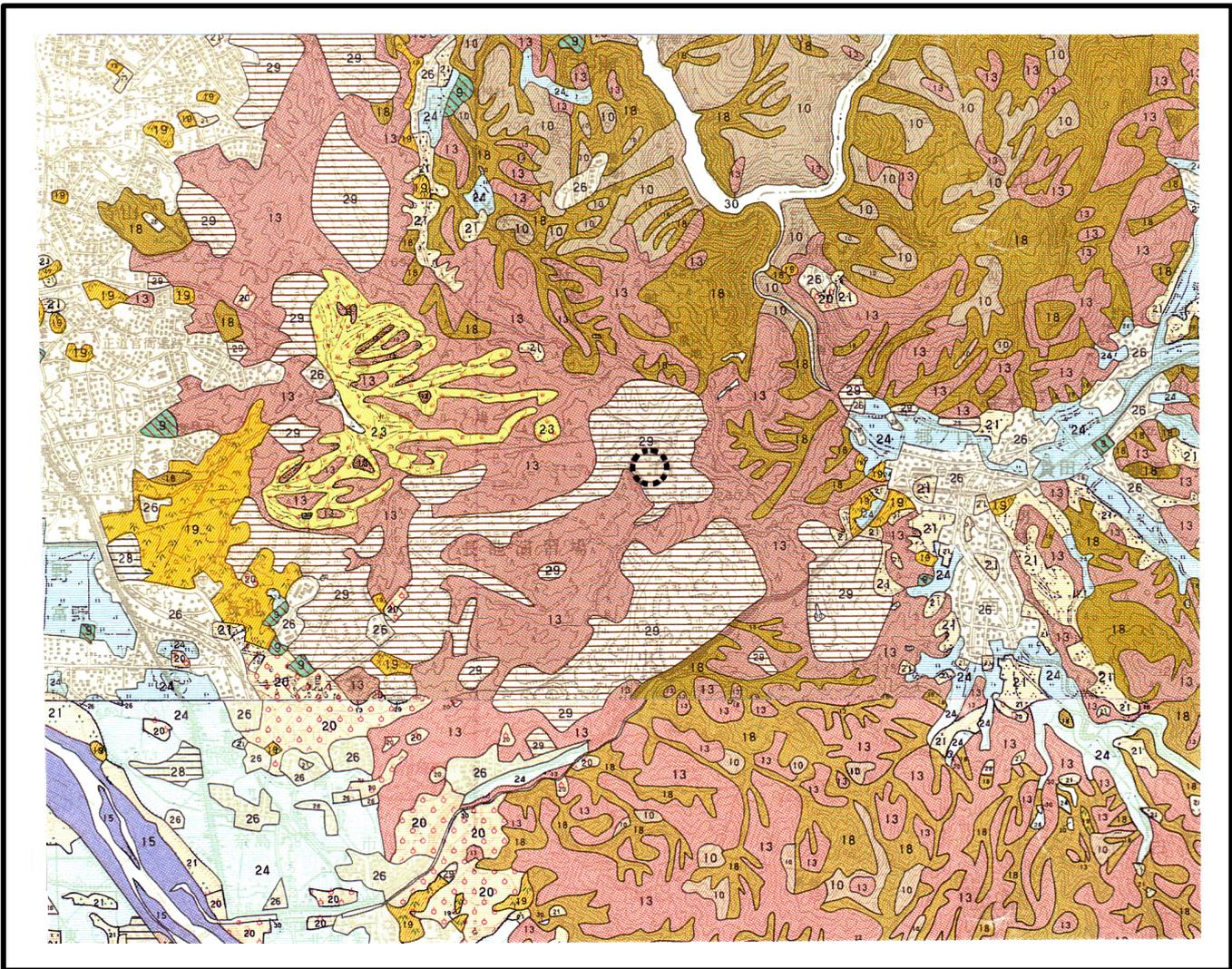
### 植物生育環境としての土壌の状況

事業予定地内は現有施設に隣接した敷地内の人工緑地(芝地)、駐車場等に利用され、人為的に造成された場所である。そのため、事業予定地の土壌の表層に供給あるいは還元されている有機物はほとんどなく、植物生育環境として重要となる土壌の肥沃度は低い状況である。

表2-2-1.33 事業予定地周辺に生育する植物の概要

分布			城陽市	宇治市	久御山町飛地	環境省レッドデータブック	京都府レッドデータブック	近畿地区植物レッドデータブック
資料番号								
カテゴリー等			確認種 (青谷川左岸地域)	特定植物群落	確認種	A:絶滅危惧 A類	A:絶滅危惧種 B:絶滅寸前種 C:準絶滅危惧種 D:要注目種 E:要注目種・外来種	A:絶滅危惧種
分類	科数	種数	資料ごとの確認種数					
シダ植物門	19	80	78		25	ホリハシラシダ (A)	ホリハシラシダ (D) ミヤコバシラシダ (A) オクマツバ (D)	
裸子植物亜門	3	4	4		3			
被子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱	52	226	209	1	100		ミス (C) オオチャルメルソウ (A)	サテウサ (A)
被子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱	26	126	113		66		イチヤクソウ (C) イヌタヌキ (A) セイタカアワダチソウ (E)	
被子植物門 単子葉植物綱	12	117	107		38		ハリコガイセイキョウ (C) ヤマアヲ (A) ハチコザサ (C) エナシゴクサ (B) シカイ (C) コケラン (C)	
種類数計	112	553	511	1	232	1	14	1

資料： 「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」(平成13年、城陽市)  
「第3回自然環境保全基礎調査(特定植物群落)」(平成元年、環境省)  
「次期埋立処分地環境影響評価書」(平成8年、城南衛生管理組合)



## 凡例

 事業予定地

### V. フナクラス域代償植生 Substitutional Communities in Fagetea crenatae Region

 15 アカマツ群落  
Pinus densiflora community

### VI. ヤブツバキクラス域自然植生 Natural Vegetation in Camellietea japonicae Region

 25 シイ・カナムモチ群落 (滋賀県)  
Photinio-Castanopsietum cuspidatae  
9 サカキ・コジイ群落 (京都府)  
Cleeyero-Castanopsietum cuspidatae

### VII. ヤブツバキクラス域代償植生 Substitutional Communities in Camellietea japonicae Region

 10 コナラ群落  
Quercus serrata community

 13 アカマツ群落  
Pinus densiflora community

### VIII. 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生 (各クラス域共通) River-side, Moor, Salt marsh and Dune

 19 ヨシクラス  
Phragmitetea

### IX. 植林地・耕作地植生 (各クラス域共通) Plantation and Cultural Land

 18 44 スギ・ヒノキ・サワラ植林  
Cryptomeria japonica, Chamaecyparis obtusa, Chamaecyparis pisifera plantation

 19 45 竹林  
Bamboo forest

 20 46 落葉果樹園  
Deciduous orchard

 21 48 茶畑  
Thea sinensis garden

 23 53 ゴルフ場 (滋賀県) 23 牧草地 (人工草地) (京都府)  
Golf links Cultivated meadow

 24 54 水田雑草群落  
Paddy-field weed communities

### X. その他 Others

 26 56 市街地  
Urban district with a few trees

 27 57 工場地帯  
Factory and industrial area

 28 59 造成地  
Land constructed for residence and factory

注 凡例の学名及び英字は、環境庁が付したものである。  
注 凡例表示例

滋賀県の表示番号  
25 (滋賀県の表示番号に対する群集・群落の和名及び英名)  
9 (京都府の表示番号に対する群集・群落の和名及び英名)  
京都府の表示番号

S = 1 : 50,000

0 500 1,500 m



図2-2-1.9 事業予定地周辺の植生図

資料：「第3回自然環境保全基礎調査（植生調査）」（昭和60年、環境庁）



凡例



事業予定地

撮影日：平成12年1月1日

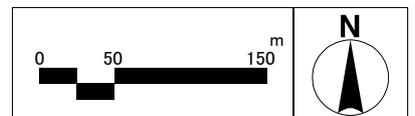


図2-2-1.10 事業予定地周辺の現況（航空写真）

### 3) 重要な種及び群落並びに注目すべき生息地の分布及び特性

#### 事業予定地の評価

植物では、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 (維管束植物)」(平成12年、環境庁)において、京都府内に記録がある種として113種があげられている。(資料編(資料4)参照)

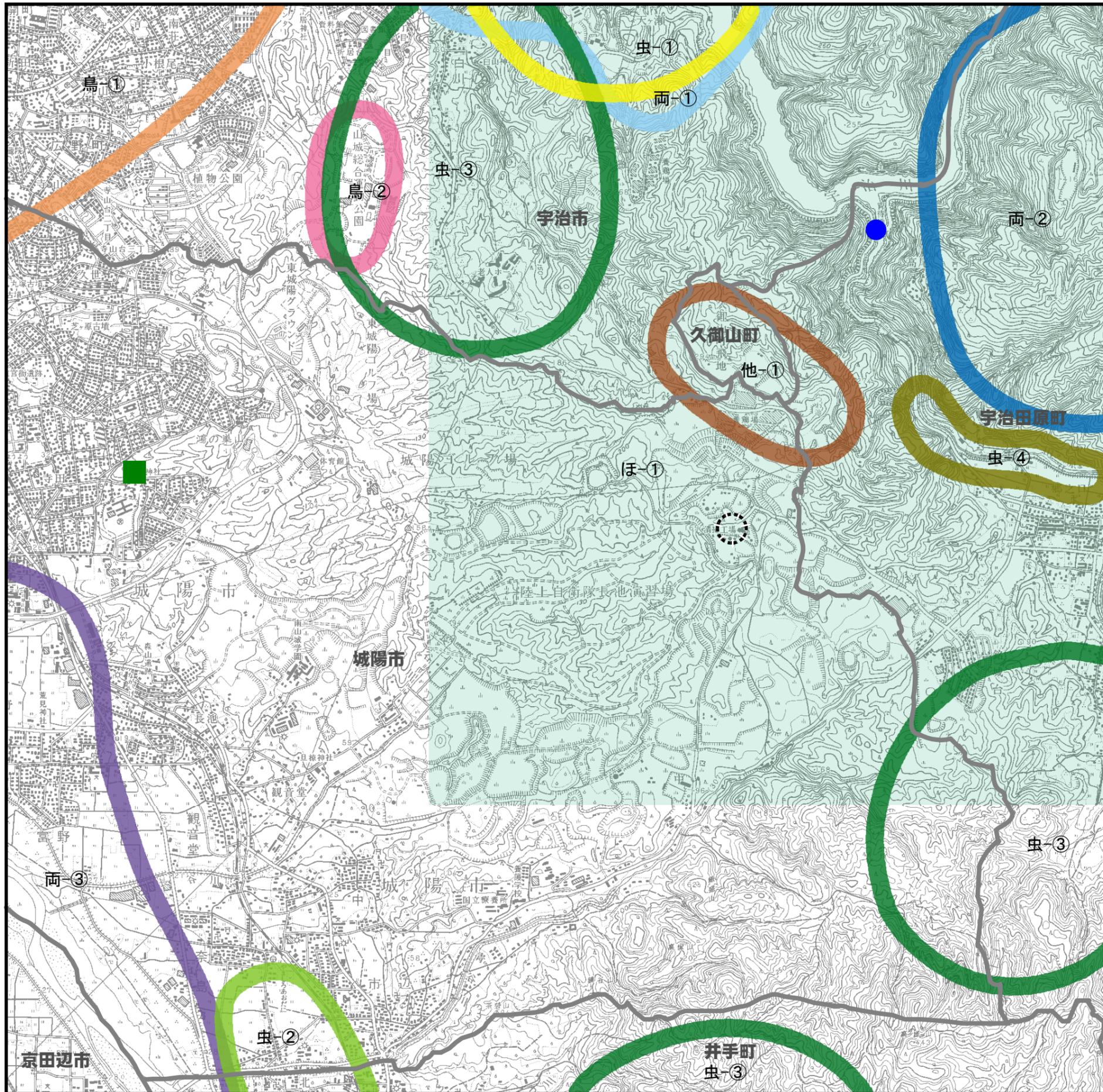
事業予定地を含む範囲で生育の可能性が指摘されている植物としては、「京都府の植物」(昭和49年、京都府)でトキワイカリソウ(府全域に分布)、オオバノハチジョウシダ(産地にごく普通に産する)がある。また、「改訂・近畿地方の保護上重要な植物」(平成13年、レッドデータブック近畿研究会)で、京都府に分布情報があるものは401種で、このうち既に43種が絶滅しており、さらに絶滅した可能性が高いものが52種にのぼっている。保護上重要な植物のうち、近畿地方での分布が京都府だけに限られている種として、オオキンレイカ、トウテイラン、イソスミレ、タンゴグミ、エチゴツルキジムシロ、オオコガネネコノメソウ、ヤマシロネコノメソウ、ミヤママンネングサ、アズマシロカネソウ、マンセンカラマツ、キブネダイオウ、ヒメノカンゾウ、サクライソウ(絶滅した可能性が高い)、ホロムイソウの14種があげられている。また、山城地域に分布情報がある種として、246種があげられている。(資料編(資料4)参照)

事業予定地は人為的に造成された場所であり、これらの植物は生育していない。

その他、重要な動植物としては、「近畿地区・鳥類レッドデータブック」(平成14年、京都大学学術出版会)において、京都府内の保護上重要な鳥類として157種が、「京都府レッドデータブック 上巻 野生生物編」(平成14年、京都府)において、京都府内の保護上重要な野生生物のうち、京都府内全域及び京都府南部地域で確認記録がある種として、哺乳類4種、鳥類92種、両生類18種、爬虫類13種、淡水魚類4種、昆虫類71種、コケ類6種、シダ植物75種、種子植物337種があげられている。(資料編(資料4)参照)

「京都府動植物分布図」では、事業予定地周辺での動植物の生育・生息情報が報告されており、また、事業予定地の北約1kmに位置するグリーンヒル三郷山周辺を対象とした「次期埋立処分地環境影響評価書」では、貴重種として、動物がニホンリス、ヤマセミ、タゴガエル、ハルゼミの4種、植物がミヤコアオイ、イワナシ、コバノミツバツツジ、ミカエリソウ、ササユリ、シュンランの6種が報告されている。

これらの資料に基づき、事業予定地周辺で生育・生息が報告されている重要な動植物の主な分布状況を図2-2-1.11に示す。また、動物に関する種別の特性と事業予定地周辺での生息環境からみた評価を表2-2-1.34に示す。



凡例

○ 事業予定地

表示	種名	資料
ほ乳類	ほ- サル、シカ	「第4回自然環境保全基礎調査（京都府自然環境情報図）」（平成7年、環境庁）
鳥類	鳥- カワセミ、ケリ	「京都府すぐれた自然図」（昭和51年、環境庁）
	鳥- フクロウ、ミミズク	「京都の自然200選」（平成7年、京都府）
両生・は虫類	両- オオサンショウウオ	「京都府動植物分布図」（平成元年、京都府）
	両- ヒダサンショウウオ	「京都府動植物分布図」（平成元年、京都府）
	両- ダルマガエル	「京都府動植物分布図」（平成元年、京都府）
昆虫類	虫- ムカシヤンマ	「第2回自然環境保全基礎調査（動植物分布図 京都府）」（昭和56年、環境庁）
	虫- オオムラサキ	「第2回自然環境保全基礎調査（動植物分布図 京都府）」（昭和56年、環境庁）
	虫- オオムラサキ	「京都府動植物分布図」（平成元年、京都府）
	虫- ゲンジボタル	「京都の自然200選」（平成7年、京都府）
植物	■ すぐれた社寺林（水度神社）	「京都府南部地域の社寺林」（平成元年、京都府）
	● 特定植物群落（宇治のオオチャルメソウ）	「第3回自然環境保全基礎調査（特定植物群落）」（平成元年、環境庁）
その他	他- ニホンリス、ヤマセミ、タゴガエル等	「次期埋立処分地環境影響評価書」（平成8年、城南衛生管理組合）

注：図は、確認された場所を含む範囲のみ記載

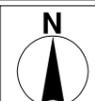
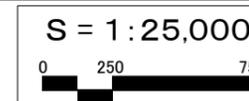


図2-2-1.11 事業予定地周辺の重要な動植物の分布

表2-2-1.34 事業予定地周辺での生息が報告されている重要な動物

動物種	生息環境の特徴	事業予定地及び周辺の状況	資料
哺乳類	ツバメ	事業予定地を含む広い範囲。森林及び森林の周辺部に生息する。	事業予定地内には、生息に適した広い面積の森林はなく、好適な生息環境は少ない。
	コノハシ	事業予定地北約1kmのグリーンヒル三郷山周辺。低山の森林にすみ、マツやスギの木立のある地域に多い。	事業予定地内には、生息に適した広い面積の森林はなく、好適な生息環境は少ない。
鳥類	ヤマシ	事業予定地北約1kmのグリーンヒル三郷山周辺。山地の流量の多い溪流、崖地の多い中流域や湖に生息する。	事業予定地内及び事業予定地を含む流域には、営巣に適した崖地、採餌に適した河川、湖沼等はなく、好適な生息環境はない。
	カササギ	事業予定地北西約4kmの宇治市広野町付近。山地から平地の川、池、湖等の水辺に生息する。	生息情報が得られた地域と事業予定地は、約4km離れている。また、事業予定地内及び事業予定地を含む流域には、営巣に適した崖地、採餌に適した河川、湖沼等はなく、好適な生息環境はない。
	クマドリ	事業予定地北西約4kmの宇治市広野町付近。草原、広い河原、水田、畑等に生息する。	生息情報が得られた地域と事業予定地は、約4km離れている。また、事業予定地内には、生息に適した広い面積の草地はなく、好適な生息環境は少ない。
	カウチ	事業予定地北西約2.5kmの山城総合運動公園周辺。平地から山地の林に生息する。	生息情報が得られた地域と事業予定地は、約2.5km離れている。また、事業予定地内には、生息に適した広い面積の森林はなく、好適な生息環境は少ない。
	ミズク (ゴミズク)	事業予定地北西約2.5kmの山城総合運動公園周辺。冬鳥として渡来し、海岸、河口、河原、埋立地、水田等広々とした草地で生息する。	生息情報が得られた地域と事業予定地は、約2.5km離れている。また、事業予定地内には、生息に適した広い面積の草地はなく、好適な生息環境は少ない。
両生・爬虫類	オサマシ	事業予定地北約2kmの宇治川周辺。河川の上流に生息するが、山間の溪流に限らず小川や用水路にも見られ、オスが川岸に産卵場を用意してメスを待ちつけ、産卵する。	生息情報が得られた地域とは流域が異なる。また、事業予定地内の流域には、長谷川があるが、上流域は伏流、下流域は護岸工事を受けた人工的な河川となっており、好適な生息環境はない。
	ヒゲシ	事業予定地北東約1.5kmの荒木山、大峰山周辺。成体は、森林に生息し、産卵は溪流の源流域の流れの緩い場所で行われる。	生息情報が得られた地域とは流域が異なる。また、事業予定地内の流域には、長谷川があるが、好適な生息環境である森林に囲まれた溪流はない。
	ダマガエル	事業予定地南東約3.5kmの木津川周辺。年間を通して水田地帯や浅い池、湿地等に生息する。	事業予定地内の流域には、水溜りのある凹地はあるものの、水田、湿地、湖沼等の好適な生息環境はない。
	タマガエル	事業予定地北約1kmのグリーンヒル三郷山周辺。小さな流れ近くの森林に生息し、伏流水の流れる岩の割れめや、溪流わきの水溜りに産卵する。	生息情報が得られた地域とは流域が異なる。また、事業予定地内の流域には、長谷川があるが、好適な生息環境である森林に囲まれた溪流はない。
昆虫類	ムカヤシ	事業予定地北約2.5kmの宇治川周辺。湿地に生息し、幼虫は湿った土やコケの間にトンネルを掘って生活する。	生息情報が得られた地域とは流域が異なる。また、事業予定地内の流域には、長谷川があるが、好適な生息環境である湿地はない。
	オムシ	事業予定地北西約1.3kmの宇治市白川付近、南東約1.4kmの宇治市田原町南付近、南約2.7kmの井手町多賀付近及び、南西約3.3kmの城陽市奈島付近。低山地から山地の雑木林に生息する。	生息情報が得られた地域とは流域が異なる。また、事業予定地内には、生息に適した広い面積の森林はなく、好適な生息環境は少ない。
	ゲンジボタル	事業予定地北東約1kmの田原川。河川に生息し、幼虫の生息場所は流水中、成虫はその岸辺等である。	生息情報が得られた地域とは流域が異なる。また、事業予定地内の流域には、長谷川があるが、上流域は伏流、下流域は護岸工事を受けた人工的な河川となっており、好適な生息環境はない。

資料： 「第4回自然環境保全基礎調査（京都府自然環境情報図）」（平成7年、京都府）  
「次期埋立処分地環境影響評価書」（平成8年、城南衛生管理組合）  
「京都府すくれた自然図」（昭和51年、環境庁）  
「京都の自然200選」（平成7年、京都府）  
「第2回自然環境保全基礎調査（動植物分布図 京都府）」（昭和56年、環境庁）

## 猛禽類の生息環境としての評価

「洛南タイムス」（平成12年5月3日）によると、城陽市内で環境省のレッドリストで絶滅危惧 類に指定されているオオタカの飛翔が報告されている。オオタカは亜高山帯（秋冬は低山）から平地の林に生息し、しばしば獲物を求めて農地や水辺等の開けた場所へも出てくる。主に、ツグミ級の小鳥、ハト、カモ、シギ、キジ等の中型から大型鳥類、ネズミ、ウサギ等の哺乳類を餌とし、繁殖は林内の枝上に枯れ枝を積んで皿形の巣を作ることが知られている。オオタカにとっての生息環境としては、営巣林の可能性を検討することが重要であることから、表2-2-1.35に示すオオタカの営巣林の特徴も参考にして、事業予定地における生息の可能性について検討した。

現地踏査の結果、事業予定地の周辺は大部分が人為的に改変された上、人工構造物や道路が存在している。森林は落葉広葉二次林が中心で、一部アカマツ林もみられるが、その樹高、胸高直径、枝ぶり等からみて、オオタカの営巣に好適なアカマツ林はない。また、森林内は低木と亜高木が込み入って生育し、高木密度は低く、オオタカの利用に適した高木層と低木層との空間もあまりない状況である。周辺には、自衛隊演習場内に落葉広葉二次林を主体とした森林があり、オオタカの餌となる鳥類の生息が確認されているものの、日常的に人や車両の利用があるため、それらの影響が比較的少ない青谷川以南やくつわ池周辺の森林と比較して、休息や採餌に利用可能な環境としての価値は低いものと考えられる。そのほか、生息場所として安定した利用に影響を与える要因としては、事業予定地及び周辺における人為的な活動に伴う音の発生があげられる。周辺では、現有施設、埋立処分地、リサイクルプラザ、土砂採取事業所、自衛隊演習場があり、各施設の稼働に伴う音、通行車両による様々な音が日常的に発生している状況である。このことは、オオタカをはじめ、その餌となる哺乳類や鳥類等の動物の生息場所としても、音の影響が比較的少ない青谷川以南やくつわ池周辺の森林と比較して好適な状況ではない。

したがって、事業予定地は、オオタカにとって一時的な利用の可能性を除き、繁殖のため重要な営巣行動や安定した生息を維持する上で重要な餌場としての利用可能性も低く、その環境特性は好適ではないものと考えられる。

表2-2-1.35 オオタカの営巣林の特徴

特徴	平地から亜高山帯（秋・冬は低山帯）の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林に生息し、しばしば獲物を求めて農耕地、牧草地や水辺等の開けた場所にも飛来する。ある程度まとまった1～50ha程度のカラマツ、アカマツ、スギ等の針葉樹の単層林であることが多く、特に東北、北関東ではアカマツ林やカラマツ林に、首都圏から東海地方にかけてはスギ林に営巣していることも多く、また、海岸の防潮林や広葉樹の二次林に営巣した例もある。 一般に、営巣地はアカマツ林が広く分布する地域が多く、高木密度が比較的低くて、高木層と低木層との間に一定の空間をもつ、樹齢40年以上の林を好む傾向がある。
樹種	アカマツ、スギ、モミ、カラマツの順で多い。
樹高	17～18m程度 全国アンケート調査では以下のとおりである。 1993年の営巣木平均：樹高18.54±6.09m、胸高直径41.23±17.58cm(N=78) 1994年の営巣木平均：樹高17.53±5.84m、胸高直径40.82±17.89cm(N=90) 1995年の営巣木平均：樹高17.66±5.80m(N=106)、胸高直径39.66±17.36cm(N=105)
生息環境	繁殖期には、森林と農耕地、河原等の開けた環境や集落がモザイク状に存在する環境でよく観察され、巣は森林につくられる。非繁殖期にあたる冬期は繁殖期にほぼ同じであるが、より開けた環境や都市の周辺部に生息している。また、行動圏としては、ババリア地方（ドイツ、バイエルン州）南部の冬期では平均4,000ha、最高8,000ha、ほかのヨーロッパではつがいの冬期の行動圏は約5,000haである。日本における行動圏調査は十分に行われているとはいえないが、つがいを対象にした断片的な調査では繁殖期の行動圏の大きさは数百～千ha以上と推測される。 営巣林の林床植物は主に群落を構成している樹種によって左右されるが、亜高木層は一般的に密度が低い。栃木県那須野ヶ原では立木密度13.1本/100m <sup>2</sup> （=1,310本/ha）、樹高17.1m、胸高直径26.4cmの樹齢40年以上のアカマツ林を営巣林として利用しており、込み入った林よりも林内に空間が広がっている林のほうを好む傾向がある。
地形	地形は平地か緩斜面が多い。スギ植林地が営巣林の場合は、樹幹にコケがついている場合が多い。 全国アンケート調査では以下のとおりである。 営巣木と道路の距離は平均263.24m 建物との距離は平均302.50m

資料：「オオタカの営巣地における森林施業」（平成7年、前橋営林局編）

#### 4) まとめ

資料調査では、事業予定地を含む広い範囲において、貴重な動植物の生息・生育が確認された。

事業予定地は、現有施設の敷地内にあり、周辺には埋立処分地、リサイクルプラザ、土砂採取事業所があり、これらの施設への搬入路として舗装道路が整備され、ほぼ毎日搬出入車両等が走行している状況であることから、動植物の生息・生育環境としては、周辺と比較して良好ではないと考えられる。

事業予定地西側には自衛隊演習場があり、未舗装の道路が演習場の外周と内側に整備され、不定期的な車両等の走行があるものの、落葉広葉二次林を主体とした森林となっており、陸上を行動する哺乳類、両生類、爬虫類の行動圏の一部として利用されていると考えられる。



表2-2-1.37 動植物の生息・生育状況 (2/2)

対象	情報源	生息・生育状況
動物	昆虫類	資料調査 ( , , , , , , , ) 事業予定地周辺には、ムカシヤンマ、コオイムシ、ミズスマシ、ゲンジボタル、オオムラサキ等が生息している。なお、事業予定地に保護上重要な種は生息していない。
	昆虫類	聞き取り調査 事業予定地周辺の長谷川では、水生昆虫がほとんど生息していなかった。
	昆虫類	現地踏査 事業予定地は、造成地であり、重要な種の生息環境として適していない。
	水生生物	資料調査 ( , , , , , , , ) 事業予定地周辺には、ゲンジボタルが生息している。なお、事業予定地に保護上重要な種は生息していない。
	水生生物	聞き取り調査 事業予定地周辺の長谷川では、魚類が確認されなかった。また、上流より濁水が流れており、生息環境として良好とはいえない。
	水生生物	現地踏査 エラミミズ、タニシ科の1種、シオカラトンボ、ガガンボ科の1種、ユスリカ科の1種が確認された。付着藻類は、藍藻類と珪藻類が確認された。
植物	陸上植物	資料調査 ( , , , , , , , , , , , , , ) 事業予定地は、人工緑地(芝地)、駐車場等、人為的に造成された場所であり、保護上重要な植物は生育していない。
	陸上植物	現地踏査 造成地、裸地、落葉広葉二次林、スギ・ヒノキ植林等の森林がみられるが、連続的な森林は存在しない。

資料： 「城陽市動植物環境調査報告書[公表版]」(平成13年、城陽市)  
「第3回自然環境保全基礎調査(植生調査)」(昭和60年、環境庁)  
「第3回自然環境保全基礎調査(特定植物群落)」(平成元年、環境庁)  
「京都府の植物」(昭和49年、京都府)  
「改訂・近畿地方の保護上重要な植物」(平成13年、レッドデータブック近畿研究会)  
「近畿地区・鳥類レッドデータブック」(平成14年、京都大学学術出版会)  
「京都府レッドデータブック 上巻 野生生物編」(平成14年、京都府)  
「京都府動植物分布図」(平成元年、京都府)  
「京都府すぐれた自然図」(昭和51年、環境庁)  
「京都の自然200選」(平成7年、京都府)  
「京都府南部地域の社寺林」(平成元年、京都府)  
「オオタカの営巣地における森林施業」(平成7年、前橋営林局編)  
「南山城鳥類目録2001」(平成13年、中川宗孝他)  
「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 8 植物 (維管束植物)」(平成12年、環境庁)  
「京都府の昆虫( )」(昭和58年、京都府)  
「京都府の両生・は虫類」(昭和62年、京都府)  
「京都府自然環境目録」(平成14年、京都府)  
「第2回自然環境保全基礎調査(動植物分布図 京都府)」(昭和56年、環境庁)  
「第4回自然環境保全基礎調査(京都府自然環境情報図)」(平成7年、環境庁)  
「第2回自然環境保全基礎調査(動物分布調査報告書(鳥類)全国版)」(昭和56年、環境庁)

## 5) 生態系の概要

### 地域生態系

「京都府レッドデータブック 下巻 地形・地質・自然生態系編」によると、自然性が特に高い植物群落や希少な群落、典型的な二次的群落や、生態学的価値、学術的希少価値、遺伝子資源価値など、府内における保護上重要な植物群落 36 種について、その特長、分布、保全に対する対策がとりまとめられている。

このうち、事業予定地周辺では、宇治市宇治山田の興聖寺、城陽市寺田宮ノ谷の水度神社が、シイ群落の分布域となっており、「管理維持」（現状の管理を維持することが必要）のカテゴリーに位置づけられている。

### 食物連鎖

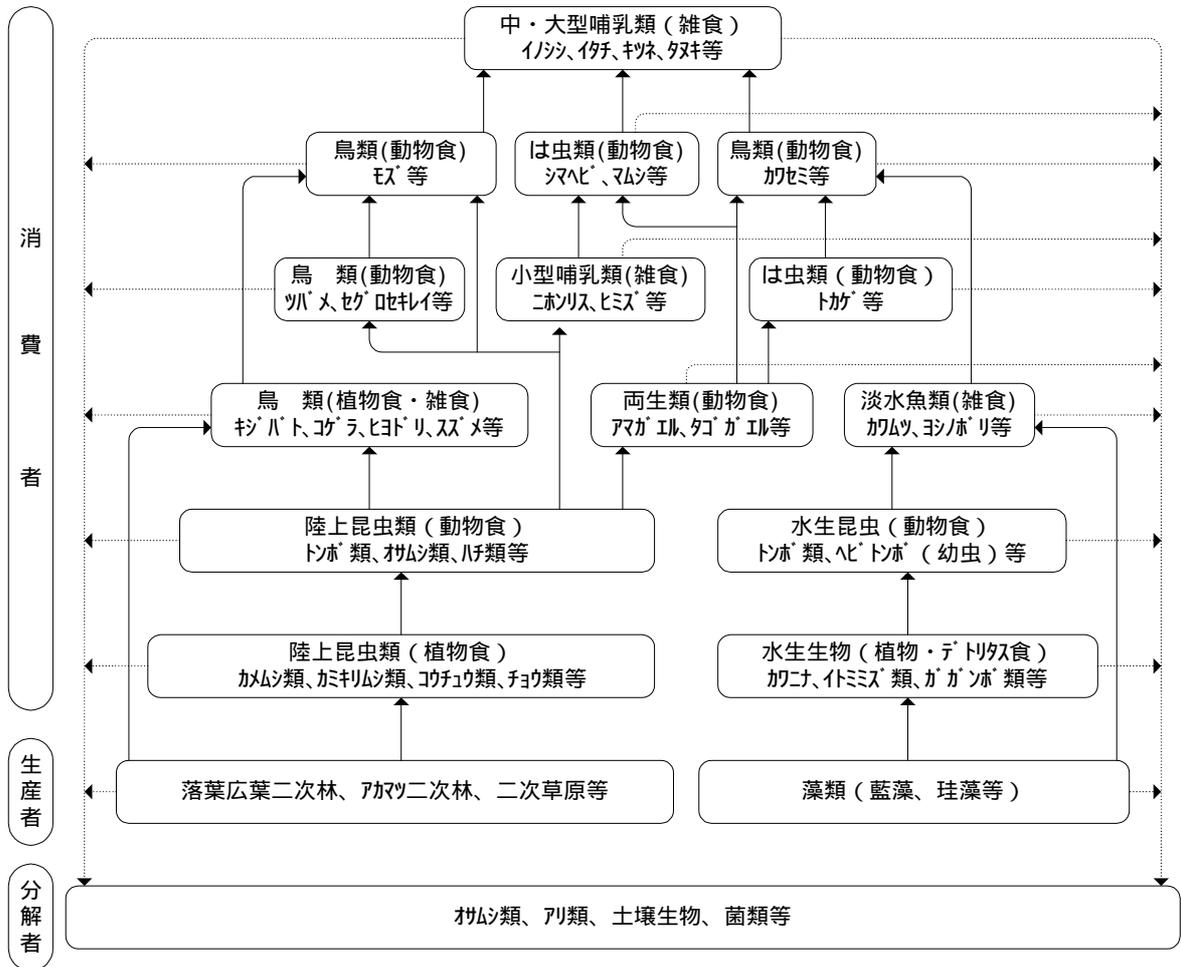
事業予定地及び周辺は、大部分が人為的に改変された上、人工構造物や道路が存在している。森林は落葉広葉二次林が中心で、一部アカマツ林もみられることから、人為的な環境及び落葉広葉二次林等の森林環境を基盤とした生態系が形成されているものと考えられる。なお、事業予定地は、現有施設に隣接した敷地内の人工緑地（芝地）、駐車場等の造成地である。

これらをふまえて、事業予定地及び周辺において想定される食物連鎖の概要を模式的に示したものを図 2-2-1.12 に示す。

想定される食物連鎖の範囲は事業予定地を含む流域とし、資料調査、聞き取り調査及び現地踏査の結果によって生息の可能性が確認されている生物種を対象とした。この食物連鎖の模式図に基づき、事業予定地及び周辺における生産者、消費者、分解者についてまとめたものを表 2-2-1.38 に示す。事業予定地及び周辺においては、落葉広葉二次林等の森林を基盤とし、イノシシ、キツネ等の中・大型哺乳類を最も上位とする食物連鎖が形成されていると考えられる。

表2-2-1.38 事業予定地及び周辺における食物連鎖のまとめ

選定対象	該当する種
生産者	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上では、落葉広葉二次林を中心としたアカマツ林等の森林や、草原が該当する。</li> <li>河川では、藍藻類や珪藻類等の藻類が該当する。</li> <li>事業予定地は、現有施設に隣接した敷地内の人工緑地（芝地）、駐車場等の造成地である。</li> </ul>
消費者	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上では、植物を餌とする昆虫類が下位に位置し、それを餌とする動物食の昆虫類、それを餌とする両生類、鳥類等とつながり、上位には、鳥類のモズや、爬虫類のシマヘビが位置する。</li> <li>河川では、植物を餌とする水生昆虫類が下位に位置し、それを餌とする動物食の水生昆虫類、それを餌とする魚類とつながり、上位には、鳥類のカワセミが位置する。</li> <li>事業予定地及び周辺における、生態系の最も上位には、イノシシ、キツネ等の中・大型哺乳類が位置する。</li> </ul>
分解者	<ul style="list-style-type: none"> <li>死骸を餌とするオサムシ類、アリ類や、死骸、排泄物等を分解する土壌生物、菌類等が該当する。</li> </ul>



凡例

- は、捕食者 → 被食者 の関係であり、頂点に向かうほど上位性が高いことを示す。
- は、排泄物や、個体が死亡した場合の流れを示す。

対象は、資料調査、聞き取り調査及び現地踏査の結果によって生息の可能性が確認されている生物種とした。

図2-2-1.12 事業予定地及び周辺における食物連鎖模式図 (想定)

### 注目すべき種の抽出

資料調査及び現地踏査の結果を踏まえ、事業予定地及び周辺の生態系における注目すべき種を、生態系を捉える上で重要な以下の生物種・群集に着目し抽出した注目すべき種とその選定理由を表 2-2-1.39に示す。なお、抽出にあたっては、生態的知見が多く、指標としやすいと考えられる種とし、特殊性については、事業予定地及び周辺において、湿地等の特殊な環境はみられないことから除外した。

- 栄養段階の上位に位置する種（上位性）
- 幅広い範囲を生息環境として利用している種（典型性）

表2-2-1.39 事業予定地及び周辺における注目すべき種

注目すべき種	観点	選定理由
イノシシ	上位性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業予定地及び周辺における、生態系の栄養段階の上位に位置する種で、採餌や休息のため林内に空間がある高木林が必要なことから、森林の変化に敏感な種である。</li> <li>・ 行動圏が広く、事業予定地及び周辺を生息地の一部としている。森林を繁殖・休息の場、餌場として幅広く利用すると同時に、草地も餌場として利用するため、植生の変化、土地利用の変化による影響を受けやすい。</li> </ul>
キツネ、タヌキ	典型性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物群集の多様性を特徴づける種である。</li> <li>・ 事業予定地及び周辺を生息地の一部としている。</li> <li>・ 地域の様々な環境を利用し、雑食性であるため、森林の変化、土地利用の変化、構造物の設置等の複合的な影響を受けやすい。</li> </ul>

事業予定地周辺は、造成地、裸地がみられる環境であるが、落葉広葉二次林、スギ・ヒノキ植林等の森林もみられることから、生息範囲の一部として利用することは可能であると考えられる。事業予定地は、現有施設に隣接した敷地内の人工緑地（芝地）、駐車場等で、人為的に造成された場所で、注目すべき種の生息には適していない環境である。

以上のことから、本事業の実施は、注目すべき種の生息環境に適した場所の直接的な改変を伴うものではないことから、生物種の生息状況への影響はほとんどなく、事業予定地及び周辺の生態系への影響もほとんどないと考えられる。